



発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内(〒100-0013)
全国税労働組合
発行人 岡田 俊明
電話(03)3581-3678
FAX(03)3507-0886
振替口座 00140-2-68514

“税務の職場”
何でも110番
zenkokuzei@aol.com
全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも110番」を常時設置しています(電話とFAXは上記の番号までどうぞ)。

全国税ホームページ
http://www.kokko-net.org/zenkokuzei

調査 件数も中身も

ブレもぎ、急ぎもぎ

定期異動後、「国税のコア業務は調査だ」を受けて、調査件数の増加と中身のある結果を求めた号令が次々と増幅されて発せられ、異常ともいえる調査事務の押しつけが持ち込まれている。「調査が中心業務」との位置づけを否定するものではないが、「方針がブレすぎ」「結果の求め方が急ぎすぎ」という声がでている。

局長、語る

7月24日、全管署長・副署長会議で東京局長が訓示した。

「税務調査は、税務行政の中でも最も重要な業務の一つである。これまで、滞納整理を「最重要課題」と位置づけていたが、この言葉は

消えた。明らかに方針を振ったのだ。

東京局長は続けて、調査事務量を確保し、可能な限り接触頻度を高めよ、深度ある調査と簡易な接触を組み合わせよ、広域展開の納税者や個人・法人同時調査を組織あげてやれ、波及効果のある深度ある調査、調査の質の向上を図れ、更正を念頭に置き、修正しようよを前提とした不十分な調査はすんな、調査能力の向上を図り、将来を担う人材を育てよ、とこと細かに訓示した。

「税務調査は、税務行政の中でも最も重要な業務の一つである。これまで、滞納整理を「最重要課題」と位置づけていたが、この言葉は消えた。明らかに方針を振ったのだ。東京局長は続けて、調査事務量を確保し、可能な限り接触頻度を高めよ、深度ある調査と簡易な接触を組み合わせよ、広域展開の納税者や個人・法人同時調査を組織あげてやれ、波及効果のある深度ある調査、調査の質の向上を図れ、更正を念頭に置き、修正しようよを前提とした不十分な調査はすんな、調査能力の向上を図り、将来を担う人材を育てよ、とこと細かに訓示した。

副署長が全部みる

東京局の法人課税では、突如だされた指針に振り回されている。

花開いた

8月4日、東京局で個人課税全管統括官会議が開催された。冒頭、局幹部は「調査

日数拡大が花開いてきた。確申期事務を変えて、4〜6月調査も花開いた」と胸を張った。

確申期事務をスリム化する、法人からの応援が前年並みとは考えるなどといった。納税者サービスの充実というテーマも、確定申告においては納税者の「自己責任」論に転じ、調査にひた走る方針だ。

そして、特調12日、一般調査5日、着眼調査3日、2・5日といずれも1件あたりの調査日数を減らす方針を打ち出した。

深度ある調査と矛盾した方針が調査件数増加のため、調査担当者にのしかかる。

副署長が全部みる

東京局の法人課税では、突如だされた指針に振り回されている。

花開いた

8月4日、東京局で個人課税全管統括官会議が開催された。冒頭、局幹部は「調査

転籍 リストラ

配置転換対象部門	対象職員見込数
農林統計関係	1,725人
食糧管理関係	1,078人
北海道開発関係	105人
合計	2,908人

19年度	各府省受入目標数	728人
	うち 財務省	198人
	うち 国税庁	105人

*19〜22年度の4年間で配転させる。

平和のために リレー旗つないだ仲間たち



「国民平和行進」は5月6日、ビキニ環礁で被爆した第五福竜丸が展示してある東京・夢の島を出発。3か月かけて広島まで行進し、道行く人に平和を守ろうと訴えた。



- (上) 東京の組合員
- (中) OBも参加した奈良県支部の組合員
- (下) 兵庫県の組合員

全国税はメインコースの行進に参加。行進に加わった東京地連、東海地連、近畿地連の組合員や家族の手によって、「全国税平和行進旗」が引き継がれた。自民党総裁選の有力候補は9条改正を柱とする憲法改悪を次期政権の中心課題と位置づけている。改正手続法の「国民投票法」の成立、教育基本法の改悪も狙われている。平和を守るために、行動しよう。

初年度、105人受け入れ

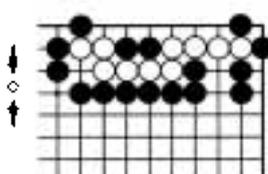
公務リストラが具体化しはじめている。農林、北海道開発で約3千人をリストラ対象とし、4年間で他の省庁に配転させる計画が明らかになった。政府は「国家公務員雇用調整本部」をつくり、対象とした職員を省庁間配転させる。一方、受入れ側の省庁は新規採用が見合せて抑制されることになっている。配転と称しているが、各職員にしてみれば片道切符の転籍であり、転籍に応じなければ公務の職場から去らざるを得ないのだから、きつい選択だ。上表のとおり、国税は105

人を初年度で受入れるよう目標を設定された。4年間で420人の受入れ目標となる。国税庁はこの9月に申し込みを受け、10月に内定。19年2月から税大和光校舎で3月まで研修し、4月に配転受入れという日程を組んでいる。国税の場合、過去にも林野等からの受入れ実績があるが、この人たちの苦労は大変なものであった。今回の配属部門等は未定だが、内部は縮小の流れである。いずれにせよ2か月間程度の研修ではとても足りないであろう。転籍に応じざるをえない職員に身になって、手厚い受入れ態勢を当局はとるべきだ。全国税も全力をあげる。

詰碁

出題 九段 石博郁郎
黒先
ヒント

一手目の好手からナカテにします。(7分で二、三段以上)



そらば人弾

「やってみせ、言ってみせて、誉めてやらねば、人は動かじ」が指導育成の要諦

と税大通信 472で東京研修所長は言っています。そして「昨今は、スピードと効率を要求される時代。結果を求め、手を加え過ぎて、考える余裕を奪ってはいないか、との反省もよぎります」とも 国税庁のこのところの仕事に対する指示、伝達は、この言葉があまりにもぴたりとあてはまる。スピードと効率を求めるあまり、物事の本質を見ないでつきすすんでいるのではないか、あまりにも短時間で若者を一人前とするための研修ばかり、内部事務一元化しかり、などなどである。国税庁は早くこの事に気づき改善して欲しい、全国税も全力をあげる。

年金・退職金の「民調」も50人以上

人事院の危険な動き

人勤が「据え置き」だったため、職場に安堵感がある。しかし、攻撃が収束したわけではない。年金と退職金の削減という、次なる重大な攻撃が準備されている。

調査すでに終了

人事院は7月3日から9月8日にかけて「民間企業の退職給付(企業年金・退職一時金等)調査」を実施した。諸外国の公務員制度の

金を平成22年に廃止する

ことを決め(4月28日閣議決定)、人事院に民間の企業年金と退職金を調査せよと指示。これに

見えみえの調査

人事院は、企業年金・退職一時金調査でも比較企業規模を「給与民調」と同じ50人以上とした。また、調査件数を6200社と、平成8年時の調査対象600社の10倍以上とした。この意味するところは見えみえ。給与の比較調査で今年

から企業規模を100人以上から50人以上に引下げた。この結果は、約7万円の實質下げに結びついた。企業年金・退職金となると、その影響はさらに大きくなる。企業年金がないところを調査対象に入れ「厳しい数字」をはじき出す「結果ありき」の調査をしているのだ。私たちの生涯賃金をかけて、秋から重要局面が続く。

第45回 山のつどい



御前峰から、お池めぐりコースへ。雲の向こうは日本海。



全国の仲間と(下山後、別当出会で)

ヤッホー! 白山

全国税第45回山のつどいが8月3~5日、白山で開催され、参加した47人は登山を満喫した。

午後2時すぎ南竜山荘に到着、全国の仲間と合流。参加者は車座になって自己紹介。懐かしい全

夕暮れせまる頃、皆で肩を組み、全国税の歌「明日は我らの手の中に」を合唱。走馬燈のように昔の組合活動などが思い出され、こみ上げてくるものが、戸惑った。

翌朝、「軟弱組」一行は7時出発。展望歩道を室堂から御前峰へ。槍ヶ岳・穂高・御嶽などの稜線を一望。雪渓を横切るひんやりした風が頬を気持ちよく撫でた。

下山は膝が笑い、赤面の至り。白峰温泉で湯につかり、疲れを癒した。

税務署の定員推移

<東京局>

区分	17.7	18.7	増減
署長・副署長	267	267	0
総務	619	578	▲41
広報	21	21	0
管理	909	900	▲9
徴収	1,066	1,096	▲30
総合調査	82	83	▲1
所得	2,843	2,869	▲26
資料	292	289	▲3
資産	1,151	1,155	▲4
法人	4,034	4,032	▲2
源泉	659	660	▲1
酒税	86	84	▲2
小計	12,029	12,034	▲5
行(二)職員	206	186	▲20
合計	12,235	12,220	▲15

<大阪局>

区分	17.7	18.7	増減
署長・副署長	194	194	0
総務	495	474	▲21
広報	15	15	0
管理	590	580	▲10
徴収	580	593	▲13
総合調査	46	46	0
所得	2,216	2,220	▲4
資料	152	147	▲5
資産	726	724	▲2
法人	2,171	2,170	▲1
源泉	413	405	▲8
酒税	152	148	▲4
小計	7,750	7,716	▲34
行(二)職員	191	172	▲19
合計	7,941	7,888	▲53

総務、行(二)職員 ガタ減らし

「定員事情が厳しい」当局幹部が口を開けば言う常套句。一方で国税の存在感を示す材料として「外部」事務量の確保を当局は前面に出した。この政策が定員配置でも露骨に現れている。

大どこの局の税務署の定員推移(左表)をみると、総務と行(二)職員を大幅減。署の働く環境が悪くなることにつながるが、職員は署内にいるな、外で稼げということだから当然?

【近畿・北大阪支部】先日、郵便局の職務上の現金不足が報道されていた。やはり人間は、なかなかミスをする事、なかなかミス無くすることは難しい。問題は、以前は自腹を切る場合が多かった事。

【東海・四日市分会】内部事務一元化の試行者で山陽電車とJRが利用できる人に対し、山陽電車一本での通勤ではなく、間にJRを挟む方法でしか通勤手当が支給されない。JR利用の方が定期代は安い、乗り換えなしで一本の電車で行けるのに、わざわざJRに乗り換える。身銭を切つても楽はできない。費用の面だけの合理性ではなく職員個々の状況を考慮した対応を望む。



ノルマ・ノルマに...

【東京・浅草分会】

都内K署のお話。源泉未納整理で目標80%と決めたまではよかったが、どうした訳かそれがいつしかノルマに変身した。80%達成しなかった部門は「やり直し」させられた。源泉部門から整理表を戻された調査部門のある

後、内部事務担当者の超勤が多い。水曜日は18時まで超勤。その他の曜日は、ほとんどすべての日が2~3時間の超勤。署の幹部は内部事務一元化の試行後、超勤が減ったと言っている。確かに超勤手当は減った。また、試行を1年経験した職員が、展望を失って退職した。若い人に内部事務を教えても、1年後に調査部門へかわってしまう。新

【近畿・明石】

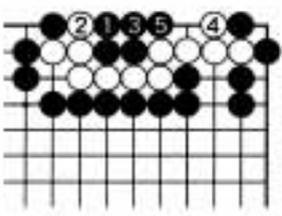
明石署は最寄りの駅

は山陽電車・西新町駅で、特に東方面の通勤者で山陽電車とJRが利用できる人に対し、山陽電車一本での通勤ではなく、間にJRを挟む方法でしか通勤手当が支給されない。JR利用の方が定期代は安い、乗り換えなしで一本の電車で行けるのに、わざわざJRに乗り換える。身銭を切つても楽はできない。費用の面だけの合理性ではなく職員個々の状況を考慮した対応を望む。

【近畿・明石】

明石署は最寄りの駅

は山陽電車・西新町駅で、特に東方面の通勤者で山陽電車とJRが利用できる人に対し、山陽電車一本での通勤ではなく、間にJRを挟む方法でしか通勤手当が支給されない。JR利用の方が定期代は安い、乗り換えなしで一本の電車で行けるのに、わざわざJRに乗り換える。身銭を切つても楽はできない。費用の面だけの合理性ではなく職員個々の状況を考慮した対応を望む。



解答

黒1のマガリ

が好手。白2に黒3、5で五目ナカデになり、白死です。黒1で4は白3で白生き。また黒1で3は白4黒5白1以下コウです。